

ヒザラガイという「貝」があります。「貝」と呼ぶにはあまりにも奇妙な姿です。漢字では「膝蓋貝」と書きます。「膝」は岩にぴたりと張り付く姿を膝にたとえたもの、「蓋」は背中の殻が蓋のように体を覆うことが由縁です。潮間帯の岩や潮だまりに非常に強く吸着し、素手で採取するのは相当に困難なのですが、江の島の海食台での活動中、見事に採取に成功した先生がいました。私は、ヒザラガイの軟体をしっかり観察したのは、初めてでした。

ヒザラガイは、背に 8 枚の殻板（背甲）が縦に連なるのが最大の特徴です。板と板の間は可動性があり、岩に密着して体を丸めることもできます。腹足（ふくそく）は広く扁平で、吸盤のように岩に非常に強く吸着しています。頭部がなく、明瞭な頭や触角も欠き、眼も退化しています。非常に原始的な軟体動物（多板綱 *Polyplacophora*）と言えます。また、口の奥に歯舌（ラドゥラ）をもち、藻類を削り取って摂取します。この歯舌の先端部に非常に硬い物質（酸化鉄または、酸化鉄から置換された磁鉄鉱）が沈着していることが、最近の研究で判明しています。その硬い「歯」で、主に岩の表面の藻類を削って食べるのだそうです。

今回採取に成功したヒザラガイは、殻や外套膜の棘などの特徴から「イワヒザラガイ *Acanthopleura japonica*」の可能性が高いと思われます。列島の潮間帯で、最も普通に見られるヒザラガイです。

（2025 年 10 月上旬／神奈川県藤沢市江の島）

